

第一回 PCB 廃棄物適正処理推進に関する検討委員会への意見メモ

関東学院大学 織 朱實

2011年9月30日

第一回の検討委員会を海外出張のため欠席することとなり、まことに申し訳ありません。2回目には、是非出席させていただきたいと思います。以下、私が JESCO 東京の環境安全検討委員会に委員として参加していて、気が付いたことをメモとして提出いたします。委員会での活発な議論の一助にいただければ幸いです。

1. 従業員のモチベーションをいかに高めるか

見学に行くと現場のみなさんは、暑い中でも防護服や防護メガネで大変な作業をしていらっしゃる、本当に大変だと思います。このように現場ではみなさんががんばっていらっしゃいますし、訓練、労災マネジメントなど様々な取り組みがなされています。これらの取り組みは、高く評価されるべきだと思います。しかし、そうした取り組みにも関わらず、5年の操業の間に、化学工場のプラントなどと比較すると、「なぜこのようなことが起こるのだろうか？」と思う事故、ヒヤリハットも含め大小規模の事故が発生しています。訓練、標語、指さし確認の徹底や、ハード面での改善も重要ですが、なによりも従業員のモチベーションをあげるための検討が必要かと思います。PCB処理のように、いつかは終わりがくる作業、うまく行って当たり前ひとたび事故が起こるとまわりからの突き上げが激しいという職場環境では、従業員のモチベーションをいかに高めていくかが事故防止のキーになるのではないのでしょうか。なんらかの資格取得に向けてのサポート、経営陣との定期的な会合(ランチョンミーティング、若手との意見交流会等)経営陣の顔がみえることもモチベーションにつながるかと思います。また、環境面で本当に意義のある仕事をしているのだという意識をみなさんにもってもらうための工夫も検討されてもいいかとおもいます。

2. 組織としての効率的マネジメントにむけて

(1) エリアごとの独立性よりも、一体としてのマネジメント

5つの事業所がそれぞれ独自の技術、独自のマネジメントで操業を行い、一つの JESCO という組織であるという一体感が薄いように思われます。扱っているものも、量も、技術も異なっており、そのためエリアごとの独立性が強いのですが(エリア処理の原則もあり)、しかしそのままでは、せつかくの事故の経験などが十分に共有できないなど弊害も大きいかと思います。会社でいえば、同じ会社のそれぞれが支店、ということになり、そうであれば人的交流、技術的交流、受け入れ物の合理的配分等一つの会社として全体的視点から決定されるのがより合理的と考えます。より効率的なマネジメントにむけては、エリアごとの独立性よりも、より組織としての一体運営を検

討することが必要かと思います。合理的マネジメントをするためには、共有できるもの、合理的に配分できるものはなにか、一つの組織としての視点から総合的に検討してみる時期にきたようにおもいます。

(2) 赤字削減にむけての一層の努力

民間企業と異なり、法律を根拠とする時限的組織であるということもあるのか、赤字に関しては民間企業と比較すると切迫度は少ないようにも思います。組織体の健全なマネジメントのためには、マネジメントの合理化、見直すところを徹底して探し出す、組織風土づくりも民間企業のノウハウなどを取り入れてみてもよいのではないのでしょうか。雰囲気が悪くなるのでやりすぎも問題ですが、コスト削減にむけて、民間企業では「こんなことまでしているのか？」という例が沢山あり参考になるかと思えます。

以上、気が付いたことをメモにしました。PCB 処理促進にむけては、いろいろな論点があるでしょうが、現場ではみなさん本当に頑張っているしやるので、こうした頑張りを外にも理解してもらい、社会からの認知度をあげることと、上記のように組織としてのマネジメントの合理化をより総合的な視点ではかることにより、処理の促進が行われるのではないのでしょうか。

以上。